

長嶺地域コミュニティ協議会たより

平成19年2月20日

発行 長嶺地域コミュニティ協議会 発行責任者 丹羽仁 ☎243-0381

長嶺地域コミュニティ協議会 第2回新年総会

平成19年2月18日



長嶺コミュニティ協議会丹羽仁会長の挨拶

新年明けましておめでとうございます。

本日はご多忙中にもかかわらず、新潟市長篠田昭様、宮浦中学校藤島總先生他総勢126名の多くの方々のご出席をいただき誠にありがとうございました。

地域によってはコミュニティ協議会設立に苦心している昨今、中央区内22のコミ協の中で最初に長嶺地域コミュニティ協議会を設立出来たこと、さらに現実のコミ協のシュミレーションをトライすることができたことに感謝をいたしています。皆さますでにご存知のように、私たちの地域では、平成5年2月の段階で現在のコミ協とまったく似た自治組織を立上げ活動してきました。

依頼13年間「ミニサミ」の愛称のもとで「長嶺サミット会議」を開催してきました。

その総会では年間の活動報告の他に、行政・各種組織団体・町内会との情報の交換や懇親の場として大きな役割を果たしてきました。

その当初から(1)地域と行政の協同のまちづくり(2)男女共同参画の推進(3)地域の公的・準公的な諸団体との連携(4)自分たちのまちは自分たちの手で(5)安心安全なまちづくり、とさまざまなキーワードを掲げて自立性の高い地域体を目指してきました。

まさにそれは私たちのまちのマニフェストでした。

平成4年から10年以上の長期にわたる万代・長嶺小学校の統合問題に取り組む中で、めげずにいろいろな問題に挑戦してきました。

① 平成6年「学校・地域・保護者」の三位一体で「いじめ・不登校 SOS 相談窓口」をつくりました。文部科学省、県教育委員会にとりあげられました。

② 平成6年高齢者のために「長嶺ふれあい給食」を東地区公民館をお借りしスタート、福祉活動に着手。

③ 平成8年「沼垂古町ふれあい散策ロード」に挑戦、行政と地域のまちづくりにとりくみ又道路の自主管理運営にトライしました。

④ 平成8年「婦人防火」を組織。防火連合会と消防団と連携、自主防災立上げの原動力となりました。

⑤ 平成12年 自治会の組織改革をしました。

(1) 副会長4人制 若手起用を実現、大竹順一さん

(2) 男女共同参画推進 女性副会長を抜てき起用、小林桂子さん

⑥ 平成12—13年 東地域保健福祉センターと日赤、民協、自治会婦人部で「地域高齢者の健康アンケート調査」。健康福祉活動を展開。

⑦ 三世代交流運動会」三世代の子供・高齢者ふれあい会など

⑧ 平成16年「中央図書館建設」への要望書を提出。ぎょうせいと地域のまちづくりなどなど

このように、マニフェストに向かってがんばってきた自治活動の事例を上げてみますと、枚挙にいとまがありません。

過去から継続され、今日のコミ協活動があると思うと、今までかかわってこられた多くの諸先輩の暖かいご理解と、ご協力のたまものであると感謝の気持ちでいっぱいになります。

まさに「ローマは一日にしてならず」のことわざ通りです。

私は、いま過去の活動の事例を強調いたしましたが、これからの次世代の方々に現在の活動に連動させながら、未来に向かってより質の高いコミ協づくりに取り組んでいただきたいとの願いや期待のメッセージとしてうけとめていただきたいと思います。

政令指定都市への移行にあたって、正直日本海型政令市、田園型政令市、分権型政令市などむずかしいことはよくわかりませんが、区政の成否のカギは何といても住民の、住民のための、住民によるコミ協の活動にすべてが託されていると思います。

コミ協間の厳しい競合や連携の必要が表面化すると思います。トップダウンとボトムアップの方式の調整、市と区、区とコミ協間での調整能力が試されるわけで、格差社会にその現象が現れないようみんなで心しなければならぬと思います。

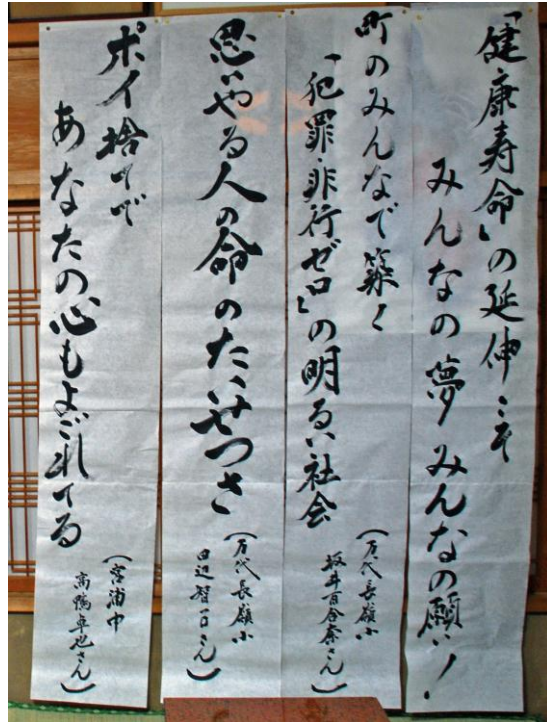


今回の総会では、長嶺コミ協の1年間の事業計画にもとづく活動報告を各専門部にお願いをいたしました。

その報告をおききになられて、忌憚のないご意見をお寄せください。

この部屋にかかげられている標語も14年間にわたる私たちのマニフェストであります。

今回から追加された新しい標語もあります。万代長嶺小、宮浦中の子供たちの標語もあります。



最後にコミ協設立のおかげで自治活動への住民の関心が高まり、行事をやるたびに参加者が増え、まちの絆がますます強く太くなったと思います。

今日の総会が少しでも意義ある会でありますように祈念し、また皆さんへの感謝の意を表し挨拶といたします。

◇ 平成12年4月 連合会規約改正のポイント

目的 (1) 若手起用…人的活性化

副会長4人制導入

(2) 男女共同参画推進をめざし

副会長女性 小林桂子さんを起用

検証と成果

		男性	女性
平成12年	第8回総会	61 (53%)	54 (47%)
平成13年	第9回総会	58 (54%)	50 (46%)
平成14年	第10回総会	58 (59%)	41 (41%)
平成15年	第11回総会	52 (50%)	52 (50%)
平成16年	第12回総会	49 (51%)	48 (49%)
平成17年	第13回総会	58 (57%)	43 (43%)
平成18年	第14回総会	57 (54%)	49 (46%)

新潟市長 篠田昭様の挨拶

皆さん今晚は、今日は長嶺地域のコミュニティ協議会、去年に引き続いて2回目の新年会ということ、本当に去年よりまた盛大な感じがするんですけど、こんなに盛り上がってまことに嬉しく思っております。

新潟市役所のところに、政令指定都市まであと何日というカウントダウンのボードがありまして、たしか42というところまで来たかなあということをおもいます。

あれを見るたびに政令市になるまでにもうそれしか時間がないということで、気を引き締めてしっかり最後の仕上げ、準備をやってゆこうということで職員一同頑張るつもりでございます。

そして政令指定都市になったらいきなりバラ色の世界がひろがるわけでもありませんけれど、なんとかいろんな分野で、できるだけ早く政令都市効果を実感していただきたいというふうに思っております。さいわいのところ例えば企業誘致にしても今まで14の市町村でんでにやっていたときと比べると、今年度は倍以上のペースでやられている。あるいは工業団地もなかなか売れなかった所も、相当いいペースで売れ始めている。豊栄地区は完売したということですし、白根も第二工業団地も相当な売れ行きで売れ出しているということで、こういう活性化効果というものがかなり出てきているのではないかと、街中ではもう報道の通りでございますけれども、ダイエーのあとはラブラ万代ということで又新しい魅力が加わる、ここに紀伊国屋さんも今の面積よりも更に大きくなるような形でお引き受けいただき、又駅南のプラカにはジュンク堂書店か紀伊国屋書店を上回るような売り場面積で進出していただき、紀伊国屋さんとジュンク堂書店の効果だけでも、おそらく山形県、福島県から更に多勢の方からきていただける、それくらいのパワーを持っております。



新潟駅の連続立体交差事業も新年度からは今度は新潟政令都市ということで事業参加いたしますし、そんな面でかなりいろいろな街づくりの動きが今まで以上に出てきていると思っておりますし、何といっても我々ソフトも大事ということで、まちの仕組みこれが一番大切、特に分権型の政令都市という面では、このソフトの仕組みが一番大切大切だと思っております。そういう時に長嶺地域さんからは、今日も専門部会からの報告があったようでございますけれども、まさに他の地域に先駆けてさまざまな活動をやっていますし、心強く思っております。

新年度はいろんな学校支援とか地域の環境整備するとか、いろいろな面でのモデル事業、モデル活動をしていただきたいと思っておりますし、そのいいものをお互いに学びあって2008年度からは全域でいろんなコミュニティ活動が始まると大変いいなあというふうに思っておりますし、又コミュニティ協議会で一生懸命やっている市民のためになる活動をしているところは、当然のことながら運営費とは別の活動支援費を有償ボランティアの形で差し上げる、これは私は当然のことではないかと思っております。

一生懸命やっているところも、半分眠っているところも同じということでは、これは逆に不平等に

なってしまいますので、おおいに活動をしていただいてそして活動支援費も有効に活用していただきたいと思っております。

ここ長嶺地域がコミュニテイ活動のまさに先行、代表例というかたちでこれからも進んでいただけると確信しております。

今日の盛り上がりを見れば、まさにますますやってくれるのではないかと期待も高まっております。

是非地域のまとまりというもの、そして地域を愛すれば愛するほどおそらくみなさま方は地域がかわくなる、そういう循環に入っていると思っておりますので、私どもも長嶺の取り組みに又全市が学んでゆきたいと思っております。

今日は大いに皆さんで語り合っ、盛り上がって明日への活力を養っていただきたいと思っております。大変ありがとうございました。

宮浦中学校藤島総校長の挨拶

お晩でございます。顧問という名前がつきますと、あいつも長くはないとお考えでしょう。

14回目の今日の協議会のうち3回出席させていただきました。今日が最後つまり今年度末で退職になります。それからもう一人、万代長嶺小学校の高橋校長で今日は所要で欠席でございますが、あの方も今年で3年たちましたので、これも多分お払い箱であろうと考えております。

私たちの児童生徒がみなさんに本当にお世話なっていることに対し、まず御礼申し上げます。

地域と連携している学校、地域の学校とかこういう言葉は使うんですけど、実際に地域に根ざした学校というのは口で言うほど簡単ではありません。

しかしこの地域で学校があるおかげで、小学校も中学校も非常にいい教育教育活動をさせてもらっている、そのことに深くお礼申し上げます。

ただ昨今いろんな子供もいまして、例えば朝オレンジジャンパーでいろんな場所に巡回されている皆さんにあまり挨拶もできない子供もいるかもしれませんが、多分低血圧せいかなあとか、いろんなことでお許しをいただいて、そのうちに挨拶も出来るんてないかと私たちは考えておるわけでありませす。

少しずつ良くしていこう、この地域の学校としての存在価値を高めていこう、そんなことを小学校、中学校でお互いに考えながら教育活動を推進しております。

今後ご理解、ご支援をお願いします。

本日はありがとうございました。



多彩なる女性出席者

